

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
24UHEC1110	生活環境論	1	身近な生活環境問題について考察を行い、我々の生活様式や考え方といったものが生活環境に密接に結びついていることを知る。また、生活中のモノやデキゴトをどのように意識して捉えているかといった環境観や価値観が生活環境問題を議論する際に重要となることを学習する。	生活環境にある疑問や課題を自ら発掘し、将来の研究において自ら問題設定ができる能力を養うことを目的とする。		◎				◎				
24UHEC1120	基礎造形実習	1	幾何学の基本法則を効果的に用いること。幾何学図形の特徴と構成についての基本法則を身につける。	イメージやアイデアを形態または立体によって表する方法を学ぶ。			○		◎		◎			
24UHEC1130	生活科学	1	生活環境学科での学習において必要となる基礎的な科学的知識の習得を目的とし、科学的な視点で生活環境中の様々な現象を捉える能力を養うことを目指す。	今後の専門科目の学習や研究で必要となる数学、化学、物理、および生物の基礎的な知識について習得することを目標とする。		◎					◎			
24UHEC1140	ファッションビジネス論	1	ファッションビジネスの構造を学び、そこに存在するファッションビジネス特有の機能を理解する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ファッションビジネスの機能を理解し、日々変化するアパレル業界への対応力を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎						◎			
24UHEC1150	アパレル構成学	1	最も身近な生活環境を作り出す衣服について、人間にとって着心地の良い衣服とは何かという理念を持って、種々の観点から衣服の構造の原理を学び、衣服設計における基礎的知識と共に応用能力を養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	この科目は生活環境学科を学ぶ上で6コース共通科目であり、専門科目として広い視点からアパレル全般について学び、毎日着用している衣服について専門的立場から分析ができるようになることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							◎		◎	
24UHEC1160	住居学	1	住まいのあり方を学ぶ基本として、住居の中で行われる生活行動や各生活行動からみた空間のあり方、健康で快適な住まい方および住まいの管理方法を学び、これからの住まいについて考える。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	これからの望ましい住まいのあり方を考えることができる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			
24UHEC1170	建築概論	1	我々の身の回りの生活環境を形作っている建築、まち、都市とはなにかを理解し、豊かな生活環境の創造にとって重要な建築・都市空間のデザインの手法について理解を深めることを目標とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	建築、都市の持つ様々な特質をその背景や意義などを含めて理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																		
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																		
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性											
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2										
24UHEC1180	基礎・設計製図演習	1	建築、空間設計において、設計図面はデザイン意図を他者に伝えるための重要な手段であり、さらには優れた建築・空間を理解するには、図面を読み取る能力が必要である。この科目では、設計製図における基礎知識と表現技術を学び、図学、製図法、空間の各部位、構造、スケールについての理解を深めることを目的としている。	次学期以降の設計実習に必要な基本的な製図知識と技術を習得し、各自が考案した小空間を設計図面（平面、断面、立面図）、透視図、模型で表現できる。		○		◎				◎											
24UHEC1190	生活科学演習	1	実験を含む演習を行い、これからの4年間に生活環境学科で学ぶために必要な科学の基礎的な知識・技術や心構えを体得するとともに、科学的事象について考察を加えてまとめる能力を身につける。	現象を科学的に考え、定量的にとらえる能力を修得する。科学や数学の基礎知識について演習をとおして学ぶとともに、基本的な器具の取扱いや試薬の調製などの実験に関する技能を身につける。		○		◎			◎												
24UHEC1200	服飾デザイン論	1	今日の服装は多様化し個性化が求められている。服飾デザイン論では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的な知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。 1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的な側面を認識する能力を獲得する。 2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。 3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎的な知識を習得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							◎				◎								
24UHEC1210	アパレル構成学実習 I	1	人体を被う衣服の一連の製作過程を学び、被服構成の知識や技術を修得する。またこれらを活用発展させる能力、時代の持つファッション性や美的感性、さらに既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的な知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	原型を使用した衣服パターンの作図と衣服の組み立て工程の理解、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性への理解、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（工業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。												○		◎	◎				
24UHEC1220	インテリアデザイン論	1	快適な生活環境を創造する上で、インテリアデザインの果たす役割はとても重要である。この授業では、インテリアデザインの概念の発生から現在にいたるまでの変遷を検証し、インテリア空間を構成している要素とその組み合わせの仕組みを学び、第2の衣服としてのインテリアデザインのプロセスを理解する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的な知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	インテリアデザインに必要な基礎知識を習得し、そのプロセスと役割を理解する。ヒューマンスケールからの発想が環境づくりに生かされて、人間を包み込む空間すべてが対象にされることを認識する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。															◎				
24UHEC1230	グラフィックデザイン基礎実習	1	グラフィックデザインの手法を用いて作品を制作しながら、デザイン概念を理解する。	様々な表現に活かせるグラフィックデザインの基本スキルを身につけるとともに、デザイン全般における基礎的な技術力・表現力を修得する。																○		◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
24UHEC1240	環境共生概論	1	近年、環境保全の重要性が高まっていることは周知の事実であるが、環境を守ることがわれわれの生活の豊かさやどう関係するのかといった根本的な問いに向き合う機会はそれほど多くない。本講義では、環境に関連する基本的な事柄を学んだ上で、われわれが生活環境の改善に取り組んでいく際に、どのように環境問題と関わっていくべきか議論・考察することを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	環境問題は独立した問題ではなく、生活に密着した問題であるということを理解し、その上で生活の利便性と環境負荷のバランスをとった生活の提案や改善を議論していくための知識や方法論を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	◎				◎				
24UHEC1250	環境デザイン演習	1	居住空間や公共・商業空間、景観など、屋内外の環境を健康的で快適にデザインするために、環境を客観的に見る力を身につけることを目的とする。	空間の心理評価法、機器による測定法を中心に、環境を客観的に把握するために必要な技術の基礎を習得する。		◎		◎		○				
24UHEC1260	建築設計基礎実習	1	スケール感覚を鍛えた上で、様々な空間を特徴づける空間構成要素への理解を深め、小空間を設計するプロセスを学ぶ。加えて、基礎・設計製図演習で習得した製図技術、立体表現スキルの定着を図る。	空間を構成している要素、素材を理解し、適切なスケール感覚を身につけている。空間の構成要素がもたらす効果を理解し、要素を使って小空間を立案、具体化できる。		○			◎		◎			
24UHEC1270	まちづくり基礎演習	1	まちについての基礎的な理解を深める。まちの歴史や成り立ちを学び、まちの魅力や課題を発見する方法を習得する。	まちづくりの基本プロセスを理解する。まちづくりのための基礎的調査方法を習得する。まちの魅力や課題を発見しプレゼンテーションする方法を習得する。						◎	○			
24UHEC2110	色彩学	2	色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	色と光を科学的に捉える力をつける。日常的な生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようになることが到達目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎				◎				
24UHEC2120	統計学 I	2	近年、適切にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることが様々な分野で重要視されるようになってきている。本科目では、記述統計や統計的推測といったデータ分析や統計の基礎となる事項について学習する。また、Excelを用いて単回帰分析やt検定などの基礎的な分析を行う手法について学習する。	データ分析や研究計画の際に必要な標本抽出や母数の推定などの基礎的な用語、各種統計量の意味、帰無仮説や有意確率など検定で用いる基本的な概念について理解する。また、データに対して簡単な集計を行いグラフなどで視覚的に表現する方法、単回帰分析やt検定といった基礎的な分析を行う方法を身につける。		◎			◎		○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性					
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2									
24UHEC2130	統計学Ⅱ	2	統計は様々な分野で利用されており応用も幅広い。本科目では、発展的な統計手法について学習する。統計の学習においては数学的知識が要求されるため、統計の理論を支える数学的背景についても基礎的な部分に限った学習を行う。また、実際に学術論文などに記載されている統計分析結果の読み方についても学習を行う。	多変量解析やノンパラメトリック検定などの基礎の学習ではふれられることが少ない統計手法について分析の考え方や結果の読み取り方を理解し、論文などに記載された分析結果を適切に読み解く能力および自身で解析を行うための知識を身につける。また、統計的推測や検定の理論的背景を簡単に理解することを目指す。		◎			◎		○						
24UHEC2140	阪神間文化論	2	私たちが学ぶ、「阪神間」という地域では、「阪神間モダニズム」という用語が言及されることも少なくなく、この「モダニズム」が一つの特性となっている。「阪神間モダニズム」のなかで展開されてきた芸術・音楽・ファッション・生活スタイルなどを、阪神間モダニズムを象徴する建築でもある甲子園会館（旧甲子園ホテル）のような実際に現存する「阪神間」という空間において、フィールドワークを含めながら学びたい。	生活環境学を専門とする私たちが、身近な地域を生活環境を学ぶだけでなく、同時に「モダニズム」とは何かということを考えていくことによって、それぞれの創作にいかしていきたい。単なる地域の学習ではなく、これからの創造のための学びを目標としている。		◎						◎					
24UHEC3110	生活美学	3	日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。	総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。		◎						◎					
24UHEC2150	生活文化演習Ⅰ	2	身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。	学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。		○				◎		◎					
24UHEC2160	生活文化演習Ⅱ	2	暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。	暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。							○		◎		◎		
24UHEC3120	生活文化演習Ⅲ	3	生活文化を読み解くには様々な方法論が存在するが、その中で最も一般的かつ基本的な手法といえるのが、モノやコトの歴史を知ること、つまり、対象となるモノやコトの変化を時系列に並べ、何が変化し、何が変化していないかを調査によって明らかにしていくことである。この授業ではその手法の習得だけでなく、対象となるモノやコトに対し新たな知見を得ることを目的とする。	生活文化における情報の収集、整理、分析に必要な技術を習得することを目標とする。		○							◎		◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
24UHET2110	界面科学	2	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。		◎					◎								
24UHET2120	界面科学実験	2	衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことが必ず行われる。特に繊維製品のメンテナンスに関わる知識は極めて重要である。色や柄がいくらよくても、洗濯しにくかったり、洗うことで品質が低下しては困る。洗浄の主役は、界面活性剤である。ここでは、実験を通して、洗浄を中心に界面の科学をより深く理解することを目的とする。	洗浄や洗浄に関係する事象を、実験を通して、表面的ではない、本質的な理解に至ることを目標とする。		○					◎		◎						
24UHET2130	繊維学	2	衣服素材である繊維がデザインや被服の機能に与える影響は大きい。快適な衣生活のためには、繊維素材の種類や性能を理解し、使用目的にあった素材の選択ができる教養を身につけ、制作、取り扱いなどに役立つ幅広い資質を養う。	衣服を構成している素材である“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、実生活の中で役立たせることを目標としている。		◎					◎								
24UHET2140	繊維科学実験	2	「繊維学」「繊維製品材料学」で学んできた知識を実験を通してより明確なものにする。また、実験方法を工夫・実行し、物の考え方を学び、レポートにまとめることは、日常の勉学においても有意義であり、実験の意義は大きい。	被服材料である繊維について、性質や適性を実験によって観察し、物事や現象の本質を理解する。		○						◎		◎					
24UHET2150	繊維製品材料学	2	被服やインテリア製品に要求される消費性能を把握し、糸、布、その他の繊維材料に関して、製造プロセス、性能などの基礎的知識を取得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	糸や布の構造や性能を理解し、適材適所に応じて活用ができる能力を養い、人が健康で安全に、豊かで快適な生活を過ごすために必要な繊維製品を提供できる知識修得を目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎						◎							
24UHET2160	繊維製品材料学実験	2	「繊維学」や「繊維製品材料学」で学んだ繊維、糸、布の構造や形態、特性や性能について、実験をとおして実際に視覚的に体験することで、繊維材料の知識をさらに深め、快適な衣生活に必要な実践的能力を身につける。また、テキスタイルアドバイザーとして活躍をする場合に、必要となる試験の原理と測定方法の習得も目的とする。	繊維製品に使用されている糸や布の構造や特性に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施および応用ができる能力を養う。		○							◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
24UHET2170	工芸染色実習	2	工芸染色の様々な技法について、それぞれの特徴や制作方法を習得する。絞りや蠟ケツ、型染めなどの手法で染色物の制作を行う。これら実習を通して染色のデザインや技法の基礎力を修得し、様々な繊維製品の企画や生産などへの応用につなげることを目的とする。	日本の伝統的な工芸染色における模様表現の技法の特徴や染色方法を理解する。実習を通して絞りや蠟ケツ、型染めなどの基本的な技術を習得する。			◎		○		○			
24UHET2180	被服学総合演習Ⅰ	2	これまでに被服学に関係する授業で学修した内容を振り返りながら統合し、専門分野に関連する事例や社会の問題に対する解決方法を考え提案し、社会で活用するための応用力を高めることを目的とする。	被服学に関係する知識を整理して体系的に理解し、活用できるようになる。専門分野に関する事例や問題を解決し、より良い方法を提案する力、人に伝えるための表現能力、社会で活用するための応用力を身につける。		◎			◎		◎			
24UHET3100	被服学総合演習Ⅱ	3	これまでに被服学に関係する授業で学修した内容を振り返って統合し、産業界の实地見学や人的交流も通して、社会で活用するための応用力を高めることを目的とする。	被服学に関係する知識を総合的に理解し、実社会で活用できるようになる。実社会の課題を解決したり、新規の提案を行ったりできる能力の獲得も目指す。		○					◎		○	
24UHET3110	衣環境学	3	様々な環境下における温熱的、衛生的に快適で健康で安全な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とし、衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で着心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものであることを学ぶ。	衣服は色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。本授業では、人間の最も身近な環境である衣服について、様々な環境において求められる衣服の機能を考え、健康で安全に快適な衣生活を実践できる能力を修得する。		◎					◎			
24UHET3120	衣環境実験	3	我々が今後も温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活を形成するためには、衣服の特性や性能がヒトに及ぼす影響やヒトが感じる着心地、快適性を正確に評価し、その結果を研究や開発に活かすことが重要になる。その評価方法を習得し、「衣環境学」で学んだ知識をさらに深め、快適で健康的な衣服の研究・開発の基礎的実践力を身につける。	衣服がヒトに及ぼす影響や、ヒトが衣服を着用して感じる着心地、快適性を評価する方法を習得する。さらに、対象となるヒトの基本特性と心理・行動・生理反応との関係についても実践的に学び、人間にとって温熱的、衛生的に快適で健康な衣服の条件を理解する。		○					◎			
24UHET3130	染色加工学	3	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		◎					◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2							
24UHET3140	染色加工学実験	3	テキスタイルアドバイザーとしても必要な、繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わることを、本質的な理解につながるよう、実験を通して学ぶ。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。		○		◎		◎					
24UHET3150	衣料分析法	3	身の回りにある衣料品は、性能を向上させるため改良改質され、さまざまな試験に合格したものである。その過程においても顧客からのクレーム処理においても、迅速・正確な分析が必要とされている。汎用の分析機器全般について理解力と応用力を養成することを目的とする。	科学的見地からクレーム処理、商品開発を担い得る基礎学力とデータの解析力を身につけることを目標とする。		◎				◎					
24UHET3160	衣料分析実験	3	衣料分析学で学んだ機器分析法に関する知識をふまえて、観察・測定、解析をとおして理解を深めることによって、目的に応じた分析機器の選択・試料の調整法、機器の使用法を身につけることを目的とする。さらに測定結果の取り扱いや解釈をとおして繊維や加工剤の構造と性質との関連を理解することを目的とする。	構造観察や測定を必要に応じて実施できるようになることを目標とする。すなわち、分析機器の測定原理を理解し、分析目的に応じた機器を選択できることおよび、機器を用いた実験を通して高分子物質や繊維、繊維加工剤などの鑑別ができるようになることが目標である。		○		◎		◎					
24UHET2190	消費科学	2	「消費科学」は生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える科学である。この科目はテキスタイルアドバイザーの資格科目であるので、衣生活の面を中心に消費を考え、生活者として、またアパレル分野で活躍する際に必要な考え方や知識を体系的に身につける。	衣生活を中心として消費者が望む品質を知り、消費者行動を理解する。また、繊維製品の生産・流通・消費についての一連の基礎的知識を修得する。		◎				◎					
24UHET2200	消費生活論	2	高度情報化、消費のサービス化、グローバル化など社会経済情勢の著しい変化に伴い、多様化、複雑化する消費者問題の現状と課題を知り「消費者市民社会」の担い手としての資質を修得することを目的とする。	安全で快適な真に豊かな消費生活を営む能力・知識を得ることと併せ、社会の発展と改善に積極的に関与できるような「考え、行動する自立した消費者」としての資質を修得する。	◎					◎					
24UHET2210	アパレル設計生産論	2	量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。	既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。				◎			◎				
24UHET3180	アパレル生産実習A	3	アパレルの工業生産における商品企画・設計・生産・品質評価・プレゼンテーションの各業務について、実習を通して理解を深め、分業体制でのコミュニケーション能力を身につける。	アパレルの工業生産における各業務について理解し、分業体制で責任感を持った行動を取ることができるようになること、分業体制における情報伝達の工夫や努力ができるようになることを目標とする。			○		◎		◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号								
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目								
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2					
24UHEA2150	ドラフティングCAD実習Ⅰ	2	我々が身につける洋服はパターン（型紙）に合わせて生地を裁断し、それらを接合することにより立体を成している。必要パーツの作図方法を理解することは、洋服の機能性や生産機能を知ることにもつながる。本科目では、衣服を形作るパターンの基礎理論を理解し、ドラフティング（平面製図）によるパターン設計およびアパレルCADの操作方法を習得する。	我々が普段身につけている衣服には様々なデザインのものがある。大半のデザインのパターンは原型からの展開で起こすことが可能である。パターンの基礎理論、立体的な衣服を形成するための平面製図におけるパターン展開を学び、意図するデザインのパターン製図を行う力を養い、更にはアパレルCADソフトを用いたパターン作図の方法を習得することを目標とする。				○	◎	◎			
24UHEA2160	ドラフティングCAD実習Ⅱ	2	近年のアパレル業界では、パターン設計用のCADシステムの利用は不可欠である。本科目では、パターンの基礎理論を理解し、アパレルCADシステムを使用した衣服パターンメイキング技能を身につけ、応用する能力を養う。	アパレル業界におけるコンピュータの活用方法を理解するとともに、基礎的なパターンメイキング操作を習得し、更にパターンの展開、工業用パターン作成、グレーディング展開、マーキング、3Dフィッティングまでを行い、オリジナルデザインのパターン作図能力の育成を目標とする。				○	◎	◎			
24UHEA3120	ドレーピング実習	3	ドレーピング（立体裁断）とは、モデルや裁断用ボディに直接生地を当てて、洋服の型を取る技術の名称である。その技術の習得は、簡単なものではないが、作業を通して、人体の特徴を知ることや、身体と衣服の関係を知るうえで、大変都合の良い研究方法である。最終、美しい立体物を創ることが大前提ではあるが、本科目では、その過程に起こる、素材の動きのことや、裁縫道具の使い方、または技術の名称など、ファッション表現の本流を学び取ることが目的である。	ドレーピング（立体裁断）の習得により、布の特性である経地と緯地の動きの違いを理解する。また、衣服を構成するパーツの形状を確認することで、人体とパーツとの関係性を読み取る。技術の習得より、平面パターンでは創り得ないテクニカル性のあるデザインを創造し、表現できることを目標とする。					◎	◎			
24UHEA2170	ファッションコンピュータ実習	2	近年、アパレル業界においてもコンピュータは幅広く利用されており、CG（Computer Graphics）によるデザインやプレゼンテーションが必須となっている。アパレル業界で広く使われているグラフィックソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）を主に使用し、コンピュータを使ったビジュアル表現の方法を学ぶ。	ハンガーイラストの作成およびスタイル画の着色にCGを活用できる。素材感の表現やカラーバリエーションの展開など、効率よく効果的に自らのデザインを表現する。					◎	◎			
24UHEA2180	V M D 演習	2	ファッションビジネスにおいて、VMD（ヴィジュアルマーチャндаイジング）の果たす役割は重要である。そこで、商品である洋服の知識を深め、店頭でのVMDの考え方や表現方法（ディスプレイ）を学び、商品構成、発想力、表現力、計画性、チームワーク等のスキルを身につける。	ファッションビジネスの現場で、VMDに関して、実践的に活用できる能力を身につけることを目標とする。				○	◎	◎			
24UHEA3130	服飾史	3	古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。また、服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。	服飾の歴史を学ぶことによって、社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や画像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。	◎					○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2							
24UHEE3210	建築施工	3	建築工事の発注から完成に至るまでの各段階の内容について、その概要を論述する。これを通じて一連の建築施工の流れとその技法を理解する。	建築（木造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート造）に関する企画、施工、竣工、維持管理までの流れについて理解すること。		◎				◎					
24UHEK2110	建築計画学Ⅰ	2	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは住宅・集合住宅を設計する上で必要となる計画理論について学ぶ。	住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などについて修得することを目標とする。		◎				◎					
24UHEK3110	建築計画学Ⅱ	3	建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。	住宅以外で一般の人々に比較的なじみが深い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。		◎				◎					
24UHEK2120	住宅設計	2	生活行為のベースとなる住空間の構成を学んだ上で、設計条件の整理、デザインワーク、製図、模型表現を通じて、基本的な住宅設計のプロセスを習得する。同時に、人体や物品の寸法、各室の機能、室間の関係、外部と内部、プライベートとパブリック、および個別のテーマをふまえた設計力を育成する。	立地条件、住み手のライフスタイルなど、様々な設計条件を分析し、核として設定した生活行為を支える住空間からインテリアエレメントまでをトータルに構想・立案できる。立案した住空間を具体的な戸建住宅として設計、提案できる。				○		◎		◎			
24UHEK2130	建築CAD実習	2	設計製図の基本は、鉛筆と定規を使って紙の上に美しく、力強い線を描くことである。コンピュータを使って設計をすることが主流の現在でもこのことを忘れてはいけない。CADに使われるのではなく、CADを自分の利用目的にあわせてうまく使いこなせるようになることが目標である。	2次元CAD機能を使い、設計図書（平面図、立面図、断面図など）が自由に描けるようになることを目標とする。			○			◎		◎			
24UHEK2140	建築・インテリア設計Ⅰ	2	住宅設計で学んだ基本的な住宅設計のスキルを活かし、特殊な諸条件を整理し、魅力的な住空間と不特定多数の人々を対象に新たに賑わいを創出するコミュニティ空間を設計する力を育成する。さらに、既存建築のリノベーション設計のプロセスを修得する。	厳しい設計条件のもと、核として設定した生活行為の基盤となる魅力的な住空間を考察し、具体的な建築として設計・提案できる。不特定多数の人々に供する空間の標準規格と空間機能を理解している。既存建築の構造形式を理解し、リノベーションの可能性を考察できる。既存建築に内在する空間的魅力を見出し、賑わいを創出する具体的な空間をインテリアエレメントを含めてトータルに設計・提案できる。		○				◎		◎			
24UHEK3120	建築・インテリア設計Ⅱ	3	社会に開かれた公共建築のあり方について、まちの案内所、小規模文化施設の設計を通じて理解する。必要機能をふまえたうえで建築と周辺環境などに配慮した設計能力を習得する。	各建物の機能を踏まえつつ、心地の良い場所とは何かを周辺環境の状況などを配慮しながら考え、それを設計に反映させる。			○				◎		◎		
24UHEK3130	建築・インテリア設計Ⅲ	3	地域交流の場を有する保育園と集合住宅の設計を通じて、地域に開かれた生活拠点としての建築のありかたを理解する。必要機能をふまえたうえで地域やコミュニティを活性化させる建築の設計能力を習得する。	各建物の機能を踏まえつつ、建築が地域の活性化に対して果たせる役割とは何かを考え、それを設計に反映させる。		○					◎		◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
24UHEU2170	プレゼンテーション演習	2	プレゼンテーションに求められるデザイン手法、論理的整理、伝達技術の基礎を学び、プレゼンテーションの表現能力・手法を習得する。	アイデアをビジュアル的に表現する基本を身につける。プレゼンテーションするための表現能力を演習を通じて身につける。			○		◎		◎			
24UHEU3130	造園学・同演習	3	人が社会の中で、快適に生活でき、且つ自然や文化がよりよく保全・保護されることを目的として、造園学を学ぶ。緑やオープンスペースを取り入れた環境改善を推進するための手法や技術を中心に学習する。	造園学の基礎として、日本や西洋の庭園の歴史を学ぶ。また、実際に庭園や緑地を見学したり、小庭園の計画や設計を行ったりすることにより、身近な環境改善のための知識や技術を高める。					◎		◎			
24UHEC1280	家庭生活論	1	家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならない対象として私たちの前に立ちはだかっている。いわば人間として生きる上での戦略的拠点—家庭について理解を深めることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	次の3つのことを目指す。 1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。 2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。 3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎		◎			
24UHEC3130	保育学	3	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			◎				◎			
24UHEC3140	調理学実習	3	食品の調理特性を理解し、調理操作を行い、栄養・嗜好を考慮した食品の組み合わせによる食事の提供、食品衛生的な取り扱い方法、作業の能率化、供食形態、食卓準備等を考え、健康的で楽しい食生活が計画できることを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	適切な調理操作を習得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			○		◎		◎			

